

## 第7章 文化スポーツ観光

- 1 文 化 国 際
- 2 ス ポ ー ツ
- 3 観 光 事 業

文化スポーツ観光



# 1 文化国際

## (1) 文化事業の実施

市民文化の向上、文化活動の推進、本市からの文化の発信等を目的に、各種文化事業を実施している。

また、市と市民等が協働で文化を振興し、心の豊かさが実感できるまちづくりを推進するとともに、市民力と英知を結集し、郷土に愛着を感じ、地域の内外に誇れる前橋の文化を創造するため、平成27年4月、前橋市文化振興条例を施行した。

主な文化事業は以下のとおり。

### ア アーツカウンシル前橋

前橋市文化振興条例第13条に基づき、本市の文化行政を推進する新たな仕組みとして、行政と一定の距離を置き、文化芸術の専門家による調査、分析等を行うアーツカウンシルの仕組みを導入し、文化行政の専門性、透明性及び公正性を確保するため、アーツカウンシル前橋を設置し、平成30年度から運営を開始した。

### イ まえばし市民ミュージカル

一般市民による文化活動の支援を目的とした市民参加型ミュージカルを令和元年度に開催する。

- ・本公演開催日：令和元年8月3日（土）・4日（日）
- ・開催場所：昌賢学園まえばしホール（前橋市民文化会館）大ホール

### ウ 前橋市民芸術文化祭

本市の芸術文化の振興・充実にを図ることを目的として実施する。市と前橋市文化協会の共催による、文化協会23部門の発表会。平成30年度は約2万人が参加した。令和元年度で42回目。

- ・内容：音楽・美術など23部門にわたる分野での舞台・展示発表
- ・時期：例年4月から3月にかけて開催
- ・場所：市民文化会館等

## (2) 文化施設の管理・運営

市民に芸術文化の鑑賞や活動の場を提供し、本市芸術文化の普及振興に努めるとともに、施設の管理を行う。

### 【前橋市民文化会館】

所在地	前橋市南町三丁目62番地1	
総工事費	約63億円	
敷地面積	25,705.66㎡	
延床面積	13,866.17㎡	
構造	鉄筋コンクリート造及び鉄骨鉄筋造 地下1階、地上4階	
設備	大ホール	1,200席（車椅子対応席12席）、車椅子スペース8席、親子席6席 音楽的音響効果を重点とした多目的ホール 音響可変装置、オーケストラピット、迫りなどを装置 ワンフロア・ワンスロープ型式
	小ホール	600席（車椅子対応席32席） 演劇、能楽、邦楽、室内楽、講演等 音響反射板、演劇効果設備、映写設備等を設置、演劇、講演等に適した明瞭度のよいホール
	展示ホール	大展示ホール（669.28㎡）、小展示ホール（190.00㎡）
	市民プラザ（620.53㎡）、市民ロビー（211.40㎡）、リハーサル室（2室）、練習室（1室）、応接室（1室）、会議室（大・中・小）（5室）、授乳室、フリースペース	
駐車場	約400台	

## ア 建設工程

基本設計	昭和55年 3月完了
実施設計	昭和55年 9月完了
建設工事	昭和55年12月～昭和57年8月
起工式	昭和56年 1月17日
上棟	昭和57年 4月 8日
開館	昭和57年11月 3日

## イ 運営

施設の管理運営及び文化事業を指定管理者として公益財団法人前橋市まちづくり公社に委託している。

## ウ 施設の利用状況

(平成30年度)

施設名	利用日数	利用人数	開館日数	日数による稼働率
大ホール	191日	139,299人	259日	73.7%
小ホール	168	40,695	259	64.9
リハーサル室(2室)	382	19,599	534	71.5
練習室	146	3,263	267	54.7
応接室	78	540	267	29.2
大展示ホール	152	29,870	267	56.9
小展示ホール	171	19,938	267	64.0
会議室(5室)	784	16,217	1,335	58.7
合計	2,072	269,421	3,455	59.2

※稼働率は、利用日数を開館日数で除したものの。

## エ 事業内容

市民の芸術文化への要望に対応するため、次の指定管理事業を実施した。

① 地域活性化	2事業	2,315人
② クラシック	7事業	6,102人
③ ポピュラー	2事業	886人
④ 古典芸能	3事業	2,559人
⑤ ミュージカル	3事業	2,385人
⑥ バレエ	2事業	1,562人
⑦ その他	4事業	3,994人
合計	23事業	19,803人

## オ ネーミングライツ導入

- ・施設愛称名 「昌賢学園まえばしホール」
- ・ネーミングライツスポンサー 学校法人 昌賢学園 (前橋市元総社町152番地)
- ・愛称使用期間 平成29年4月1日から令和4年3月31日まで (5年間)

## 【前橋市民文化会館大胡分館】

所在地	前橋市大胡町15番地	
総工事費	約19億7千万円	
敷地面積	3,640.58㎡	
延床面積	2,956.17㎡	
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造 地上3階（一部4階）	
設備	ホール	483席（車椅子対応席2席分）、親子席5席
	ギャラリー（64㎡）、展示室、ロビー、ホワイエ、2階各施設	
駐車場	60台	

## ア 建設工程

基本設計	平成5年3月完了
実施設計	平成5年11月完了
建設工事	平成5年12月～平成7年1月
開館	平成7年3月4日

## イ 運営

施設の管理運営及び文化事業を指定管理者として公益財団法人前橋市まちづくり公社に委託している。

## ウ 施設の利用状況

(平成30年度)

施設名	利用日数	利用人数	開館日数	日数による稼働率
ホール	90日	10,943人	279日	32.3%
ギャラリー	116	787	279	41.6
合計	206	11,370	558	37.0

## エ 事業内容

市民文化会館の機能を十分に発揮し、市民の芸術文化への要望に対応するため、次の指定管理事業を実施した。

① 地域活性化	1事業	565人
合計	1事業	565人

## オ ネーミングライツ導入

- ・施設愛称名 「大胡シャンテ マルエホール」
- ・ネーミングライツスポンサー 株式会社 クスリのマルエ（前橋市樋越町83）
- ・愛称使用期間 平成31年4月1日から令和4年3月31日まで（3年間）

## 【前橋市芸術文化れんが蔵】

所在地	前橋市三河町一丁目16番27	
敷地面積	1,670.88㎡（仮換地面積）	
延床面積	226.32㎡	
構造	煉瓦造をRC壁により耐震補強 地上1階	
設備・特徴	柱	縦方向約5m間隔に4本 横方向柱間隔約4m 壁から約2.5m 合計8本
	梁屋等なし、天井高約3m、備品類保管用倉庫1棟、多目的トイレ1基（外付け）	
駐車場	施設南側18台（身障者用1台含む） 北・東側（未舗装）20台程度	

## ア 事業の経過

- 平成18年度 「都市景観推進事業用不動産」として前橋市土地開発公社が土地建物取得。
- 平成18～22年度 前橋工科大による耐震診断、文化財保護課による文化財調査、県内事例視察、庁内ワーキンググループによる利活用の検討等を実施。
- 平成23年度 前橋工科大との共同研究を実施。利活用に向けたニーズ調査や耐震改修方法などを研究。
- 平成24年度 前橋市土地開発公社より前橋市取得。耐震改修設計。
- 平成25年度 耐震改修工事実施。庁内PT等の検討により、平成26年度以降の所管課が文化国際課に決定。
- 平成26年度 展示、演劇、音楽発表など各種文化団体により試用を開始。外構工事実施。
- 平成27年度 平成27年6月1日設置条例施行、供用開始。
- 平成30年度 平成30年4月より、施設の利用申込業務を公益財団法人前橋市まちづくり公社に委託。

## イ 施設の利用状況

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
利 用 件 数	55 件	47 件	100 件
利 用 者 数	3,186 人	4,260 人	6,577 人

## 【水と緑と詩のまち前橋文学館】

所在地	前橋市千代田町三丁目12番10号
総工事費	約18億円
敷地面積	1036.53㎡
延床面積	2729.84㎡
構造	鉄筋コンクリート造4階建て
設備	常設展示室（朔太郎展示室・近代文学展示室）、企画展示室、資料閲覧室、収蔵庫、ホール（130席）、オープンギャラリー、研修室（30席）

## ア 建設工程

- 建 築 工 事 平成4年1月～平成5年5月
- 展 示 工 事 平成4年9月～平成5年6月
- 建築工事着工 平成4年1月28日
- 建築工事完成 平成5年5月15日
- 展示工事完成 平成5年6月30日
- 開 館 平成5年9月 3日
- 新収蔵庫建築工事 平成29年12月4日～平成30年8月13日

## イ 運営

平成25年度から平成27年度までは施設の管理運営及び文化事業を指定管理者として一般財団法人前橋市文化スポーツ振興財団に委託していたが、指定管理の満了を契機に管理方法を見直し、平成28年度から市直営として管理を行っている。

## ウ 施設の利用状況

(平成30年度)

朔太郎展示室・企画展等観覧者数	30,008人
ホール、研修室使用者数	25,729人
萩原朔太郎記念館観覧者数	7,531人
合 計	63,268人

## エ 事業内容

「日本近代詩のふるさと」と呼ばれる前橋が生んだ詩人・萩原朔太郎の業績を顕彰するとともに、市民の幅広い芸術文化活動のひとつの拠点として、次の事業を実施した。(平成30年度)

### ① 企画展示

事業名	会期	会場
春は文学館できゅん。展 -詩はこころをどのように描いたか	4/14(土)～7/16(月)	2階展示室
寺山修司のラブレター展 -私が出会った表現者たち I	4/14(土)～7/16(月)	3階オープンギャラリー
サクタロウをアートする展 -解釈の快樂-	7/28(土)～10/14(日)	2階展示室、3階オープンギャラリー
この二人はあやしい展 芥川龍之介と萩原朔太郎 -アフォリズムにみる5つのターム-	10/27(土)～1/20(日)	2階展示室
『月に吠えらんねえ』 龍くんと朔くん篇	10/27(土)～1/20(日)	3階オープンギャラリー
わたしが描く『朔太郎詩』の絵画展 -おばあちゃんのほっこりごはん 野村たかあき展	1/26(土)～4/7(日)	3階オープンギャラリー
第26回萩原朔太郎賞受賞者・中本道代展	2/2(土)～4/14(日)	2階展示室

### ② 企画展示関連イベント

事業名	イベント内容
春は文学館できゅん。展	ポエムリーディング1回
寺山修司のラブレター展	対談1回、リーディングシアター1回
サクタロウをアートする展	講演会1回、コンサート1回
この二人はあやしい展	講演会1回、朗読会2回
『月に吠えらんねえ』龍くんと朔くん篇	対談1回
私が描く『朔太郎詩』の絵画展	贈呈式1回
野村たかあき展	座談会1回、朗読・ワークショップ1回、読み聞かせ1回、出張読み聞かせ5回
第26回萩原朔太郎賞受賞者・中本道代展	ポエムリーディング1回、トークセッション1回

③ 常設展特別展示 萩原朔太郎全集未収録「萩原朔太郎書簡」展示ほか

### ④ 収蔵資料貸出及び閲覧

- ・貸出 26件
- ・閲覧 61件

### ⑤ 関連団体支援事業（前橋文学館友の会、朔太郎研究会ほか）

- ・友の会文化祭
- ・朔太郎研究会例会
- ・紫陽花フェスティバル写真展
- ・ポエムリーディング ほか

### ⑥ 教育普及事業

- ・前橋児童文化センター演劇クラブ
- ・前橋高校クリスマスコンサート
- ・博物館実習生受入
- ・大学生インターン受入
- ・中学校、高等学校の職場体験学習受入

## ⑦ その他

- ・前橋文学館報の発行
- ・オリジナルグッズの販売

## オ 萩原朔太郎に関する事業

## ① 萩原朔太郎賞

日本近代詩に多大な貢献を残した本市出身の詩人萩原朔太郎の業績を長く顕彰するため、萩原朔太郎の名を冠した文学賞を授与する。令和元年度で27回目。

- ・受賞作品：1作品
- ・正賞：萩原朔太郎像
- ・副賞：100万円
- ・平成30年度受賞：中本 道代 『接吻』

## ② 朔太郎音楽祭

詩人萩原朔太郎は、自身でマンドリン曲を作曲するなどマンドリンと関わりが深いことから、朔太郎生誕120年を記念し、平成18年度に第1回を開催。平成19年度より「～マンドリンのまち前橋～ 朔太郎音楽祭」に名称を変更し、「マンドリンのまち前橋」を全国に情報発信。平成22年度には、5周年記念として独奏コンクールを実施した。平成29年度から市内アマチュア楽団に一般参加者を加え、高等学校ギター・マンドリン部などによる市民参加型の演奏会を実施している。

## ③ 朔太郎忌

萩原朔太郎の命日である5月11日に最も近い第2土曜日か日曜日に、萩原朔太郎を偲ぶとともに、作品がもつ魅力と価値について考えを深め、文化の向上に寄与することを目的として実施している。平成30年度で第46回を迎えた。第一部シンポジウム、第二部リーディングシアターを内容として実施した。

## ④ 萩原朔太郎記念館移築

昭和55年から、萩原朔太郎記念館として、敷島公園のばら園内で一般公開されていた萩原朔太郎生家の一部（書斎・離れ屋敷・土蔵）が、平成28年度に前橋文学館と広瀬川を挟んだ対岸にある河畔緑地に移築された。平成29年4月7日内覧会、4月8日オープニング式典を実施した。

入場無料 午前9時から午後5時まで（水曜日と年末年始は休館）

## 【アーツ前橋】

所在地	前橋市千代田町五丁目1番16号
総工事費	約15億円
敷地面積	約2,629.69㎡
延床面積	約5,517.38㎡
構造	既設鉄骨鉄筋コンクリート造 地下1階地上9階建のうち、地下1階から地上2階までの部分
設備	ギャラリー、プロムナード、エントランスホール、アーカイヴ、ショップ、カフェ、事務室、収蔵庫

## ア 建設工程

基本設計業務	平成23年 3月～平成23年 4月
実施設計業務	平成23年 4月～平成23年 7月
建築工事	平成23年12月～平成24年10月
建築工事着工	平成23年12月15日
建築工事完成	平成24年10月31日
開館	平成25年10月26日



## イ 運営

市直営

## ウ 施設の利用状況

平成30年度 総来館者数 103,665人

## エ 事業内容

多くの市民にアーツ前橋の活動を理解してもらうために、魅力的な施設づくりを目指して、次の各事業を実施した。(平成30年度)

## ① 企画展

事業名	会期	会場
時をつなぐ アーツ前橋所蔵作品から	6/14 (木) ～ 9/18 (火)	1階ギャラリー
横浜美術館コレクション 昭和の肖像 —写真でたどる「昭和」のひとと歴史—	7/6 (金) ～ 9/3 (月)	地下ギャラリー
岡本太郎と『今日の芸術』絵はすべての人の創るもの	10/5 (金) ～ 1/14 (月)	1階ギャラリー及び地下ギャラリー
つまずく石の縁 —地域に生まれるアートの現場—	10/12 (金) ～ 11/4 (日) ※金・土・日曜日のみ	前橋中心市街地周辺
近藤嘉男と憧れのヨーロッパ航路	2/2 (土) ～ 3/24 (日)	1階ギャラリー
闇に刻む光 アジアの木版画運動1930s-2010s	2/2 (土) ～ 3/24 (日)	地下ギャラリー

## ② 地域アートプロジェクト

- ・滞在制作 (ゲートゲンス・ヒルシュ/スン・テウ/羽山まり子/尾花賢一)
- ・表現の森

## ③ 教育普及

- ・あーつひろば
- ・アーツナビゲーター研修
- ・連携企画事業 (ロビーライブ等)
- ・おしゃべりアートデイズ
- ・アーティスト・イン・スクール

## ④ その他の事業

- ・サポーター運営
- ・メンバーシップ運営

## (3) 国際交流の推進

民間の国際交流活動の盛り上がりや、国際化に対する市民意識の高まりを背景に、多文化共生社会の実現を目標に各種事業を実施している。主な事業は以下のとおり。

## ア 外国人相談窓口の運営 (外国人生活相談事業)

前橋市国際交流協会と一体となって、相談窓口を運営。国際交流員やボランティアが相談員として、毎週2回、英語・中国語・ポルトガル語・スペイン語・ベトナム語に対応した相談窓口を、市庁舎2階に開設。

## イ 日本語教室の開催

年間36回程度、7教室の日本語教室を開催。また、年30回程度の日本語少人数レッスンも2教室開催。

## ウ 外国人への生活情報の提供

前橋で生活する上で必要な情報を、前橋リビングガイドホームページにて、英語、中国語、ポルトガル語、スペイン語、やさしい日本語で提供。

## エ 前橋市国際交流協会との連携

本市の国際化及び国際交流の総合的な窓口である前橋市国際交流協会と連携し、民間レベルでの国際交流を推進する。

## オ 国際交流員の配置

国際交流員（CIR）を文化国際課に1名配置し、地域の国際化をリードすべく、幅広い分野で活動。

<主な業務内容>

- ① 本市来賓の通訳や、海外から送付される文書の翻訳
- ② 外国人相談窓口での相談員
- ③ 前橋市国際交流協会や小中学校、民間団体などが実施する事業への協力
- ④ 地域住民の異文化理解のための交流活動への協力

## カ 多文化共生のまちづくり

在住外国人との共生を推進するため、前橋市国際交流協会及び市内NPO法人と連携し、多文化の集いを定期的に開催。

## (4) 都市間交流の推進

### ア 海外姉妹・友好都市との交流

民間レベルの交流が深まり、イタリア・オルビエート市と友好都市提携を、アメリカ・バーミングハム市と姉妹都市提携を締結した。また、17年度には、旧大胡町の姉妹都市であったアメリカ・メナーシャ市と新たに友好都市提携を結び、友好関係を継続した。今後も姉妹都市・友好都市との交流を発展すべく、民間交流の促進を図っていく。

<主な交流実績>

- ① 前橋・渋川シティマラソンにバーミングハム市から選手参加
- ② メナーシャ市との中高生交流事業
- ③ 姉妹都市締結20周年を記念してバーミングハム市との高校生交流事業再開
- ④ アラバマ日米協会表敬訪問

### イ 国内友好都市との交流

前橋への県庁誘致を決定づけた初代群馬県令・楫取素彦の出身が萩市であることが縁で、両市の交流が盛んになったことにより、前橋市制施行110周年・萩市制施行70周年を記念して、友好都市提携を締結した。観光、教育、文化、経済など各分野における市民交流活動を通じて、両市民の相互理解と親善を深める。

<主な交流実績>

- ① 前橋・渋川シティマラソンに萩市の市民ランナーが参加

## (5) 歴史文化遺産の活用

### ア 前橋学センター

平成25年度から28年度まで設置された「歴史文化遺産活用委員会（第1期・第2期）」からの提言を踏まえ、歴史と文化に立脚して地域の諸問題を解決する学び（営み）である「前橋学」の確立と、「官・館・民・学」の連携による文化創造基盤づくりに向けて、本市の歴史文化遺産研究におけるシンクタンク的な組織として、平成29年度より前橋学センターを開設した。

#### ① 歴史文化遺産の活用にかかる重点研究

- ・近世大名墓群の国指定に向けた調査研究
- ・歴史的かんがい用水の世界遺産登録に向けた調査研究
- ・絹遺産群の日本遺産登録に向けた調査研究
- ・歴史的建造物・構造物の活用にかかる調査研究
- ・前橋市史編さんに向けた調査研究
- ・明治維新150年に向けた調査研究

#### ② 前橋学ブックレットの発刊

- ・地域づくり活動及び生涯学習と連携した調査活動（ブックレットPT）
- ・前橋学ブックレット第14～17号の刊行

※令和元年度は『下川淵かるた』『前橋の古墳』『前橋と古利根川～利根川の変遷～上・下』の4冊を予定

#### イ 歴史文化イベントの開催

歴史文化遺産活用委員会の調査によって掘り起こされた、全国に誇れる歴史文化遺産を活用し、「歴史都市まえばし」を発信するため、下記のとおり魅力ある歴史文化イベントを開催する。

- ① 前橋藩主松平大和守家顕彰祭
- ② 産泰神社太々神楽・二之宮式三番叟・薪能まつり
- ③ 新陰流流祖祭
- ④ 大胡城・牧野氏まつり
- ⑤ 前橋空襲一斉慰霊
- ⑥ 酒井雅楽頭家管弦講の夕べ
- ⑦ 前橋四公祭
- ⑧ 総社秋元公歴史まつり

#### ウ 前橋学市民学芸員の養成及び活動促進

- ① 第6期市民学芸員の養成（全15回）
- ② 認定市民学芸員の活動促進（イベント補助、歴史観光ガイド員、各種調査）

## 2 スポーツ

## (1) 市民体育・スポーツ

## ア スポーツ大会

(平成30年度実績)

No.	大会名	開催日	エントリー数
1	第5回前橋・渋川シティマラソン	4月22日(日)	6,509人
2	第37回あかぎ大沼・白樺マラソン大会	8月26日(日)	2,312人
3	まえばしクリテリウム2018	9月29日(土)	432人
4	第8回まえばし赤城山ヒルクライム大会(台風の影響により中止)	9月30日(日)	3,558人
5	第22回前橋市民軽スポーツフェスティバル	11月18日(日)ほか	1,216人
6	第30回ウォーキングジャンボリー	11月23日(金)	390人
7	前橋・高崎連携スポーツ交流第20回レディースバレーボール大会	2月24日(日)	353人
8	市民スポーツ祭	9月27日(開会式)	14,496人
9	地区市民運動会(17地区開催)	地区ごとに異なる	50,822人

## イ スポーツ教室(平成30年度実績)

指定管理者:公益財団法人前橋市まちづくり公社

284コース 87,232人

## (2) スポーツ施設等一覧

No.	施設名	所在地	平成30年度 利用人数	管理
1	ヤマト市民体育館前橋(前橋市民体育館)	上佐鳥町460-7	208,998	指定管理
2	前橋市大渡体育館	大渡町2-3-11	9,395	
3	前橋市日吉体育館	日吉町2-17-12	34,821	
4	前橋市大胡体育館	河原浜町478	29,714	
5	前橋市宮城体育館	鼻毛石町1561	100,789	
6	前橋市民プール	上細井町2192	23,692	
7	前橋市大渡温水プール・トレーニングセンター	大渡町2-3-11	128,956	
8	前橋市六供温水プール	六供町1068	127,119	
9	前橋市宮城プール	鼻毛石町1561	1,560	
10	前橋市三俣テニスコート	三俣町3-1	43,731	
11	前橋市宮城総合運動場	鼻毛石町2270-1	109,148	
12	前橋市粕川総合グラウンド	粕川町西田面189	63,414	
13	前橋市富士見総合グラウンド	富士見町皆沢315-1	4,199	
14	前橋市玉山運動場	総社町1-8-2	16,130	
15	コーエィ前橋フットボールセンター (下増田運動場)	下増田町277	121,794	
16	前橋市北部運動場	上細井町2127-4	32,201	
17	前橋市清里方面運動場	青梨子町591	17,310	
18	前橋市粕川西部運動場	粕川町女淵1500-2	10,171	
19	前橋市桃ノ木川グラウンド	東片貝町417-4	59,756	
20	前橋市千本桜野球場	苗ヶ島町2516-1	6,320	

No.	施設名	所在地	平成30年度 利用人数	管理
21	前橋公園の各公園施設の一部（中央緑地）	石倉町4,5丁目地内	16,841	指定管理
22	利根川敷島緑地	敷島町地内	111,570	
23	利根川大渡緑地	総社町総社地内	24,130	
24	前橋総合運動公園	荒口町437-2	204,399	
25	大胡総合運動公園	堀越町473-4	50,054	
26	旧前橋東商業高校	上大屋町105	36,528	業務委託
合 計			1,592,740	-

※ 指定管理者、業務受託者は、すべて公益財団法人前橋市まちづくり公社。

### (3) スポーツ関係組織

ス ポ ー ツ 推 進 審 議 会	12名（うち市民公募2名）
ス ポ ー ツ 推 進 委 員 会	110名
前 橋 ス ポ ー ツ コ ミ ッ シ ョ ン	市長ほか委員26名
ス ポ ー ツ 協 会	スポーツ団体(39)、地区体協(23)、中体連、高体連 計64団体
ス ポ ー ツ 少 年 団	14種目、144団、団員3,154人、指導者682人

## 3 観 光 事 業

### (1) 三大まつりと花火大会の概要

#### ア 前橋初市まつり（令和2年1月9日）

このまつりは、別名「だるま市」と称され、毎年1月9日を開催日として、市内中心部の国道50号を交通規制のうえ、本町一、二丁目及び中心商店街は、だるま市、縁起物等の露店と人の波で終日賑わいがある。

起源は、厩橋（現在の前橋市）城主酒井重忠侯の時に、毎月4と9の日に日用雑貨の取り引きをしたのが最初といわれ、約400年の長い歴史がある。

#### イ 前橋七夕まつり（令和元年7月4日～7日）

昭和26年から全市をあげての七夕まつりとして始められ、年々充実し、各商店街が趣向をこらした飾り物や竹飾りの作品は、市民はもとより県内外からの観光客でにぎわう全国有数の七夕まつりである。

このまつりは、毎年7月7日が含まれる週の木曜日から日曜日にわたって開催され、七夕飾りのコンクールなど見物客の関心も高い。

#### ウ 前橋花火大会（令和元年8月10日）

真夏の夜を彩る花火は、市民の郷愁を誘い、夜空に大きく夢を描く雄大な夏の風物詩として親しまれている。市民、企業の協賛を得て大渡橋周辺利根川河畔緑地を会場に、打上幅800mの超ワイドスターメインや大玉花火「尺玉」など約15,000発もの打上げ花火や仕掛花火が上がり多くの見物客で賑わう。

#### エ 前橋まつり（令和元年10月12日、13日）

このまつりは、戦後「復興祭」として催されたのが始まり。その後、昭和24年に「商工祭」、昭和34年から市民総参加のまつりとして「前橋まつり」に改められ、年々盛大さを増しており、本年度で71回目となる。その主な行事内容は次のとおりである。

##### ① 祇園山車と子どもみこし

各町内、子ども会等の参加を募り山車（本山車・装飾山車、お囃子等）とみこし（本みこし・樽みこし等）で市街地中心部を行進する。

##### ② 大人みこし

各町内、商店街、事業所、団体等多数が参加して、本みこし・樽みこし・創作みこし等で市街地中心部を行進する。

##### ③ 鼓笛・吹奏楽パレード

小学校・消防音楽隊等が参加して、市街地中心部を行進する。また高等学校の吹奏楽演奏を行う。

##### ④ 文化交流広場

和太鼓、民謡踊り、八木節等の郷土芸能を実施し、後世へ永く伝承するとともに、子供たちが集い、親子の交流を図れる催物を、市内及び周辺の各関係団体や各種学校、事業所及び一般市民等が協力し実施する。

##### ⑤ イベントステージ

まつりの改善及び活性化を図るための新規イベントの企画、並びに音楽と踊りの広場として老若男女が参加できる行事を行う。

##### ⑥ 前橋だんべえ踊り

「前橋音頭」を独特のリズムにアレンジし、前橋市の木（イチョウ）をかたどったオオイチョウ（鳴子）を鳴らしながら踊る前橋だんべえ踊りに、多数の一般市民等が参加する。また、幼稚園・保育園児を対象にした「子どもだんべえ踊り」も実施する。

##### ⑦ マンドリンのまち前橋

「水と緑と詩の街まえばし」のキャッチフレーズを再認識し、継承していくため、前橋の誇りである詩人の萩原朔太郎が愛した“マンドリン”を、全市民に広げ、“マンドリンのまち前橋”の印象づけを行うと

ともに、“市民の癒し”の象徴になることを願い実施する。

## (2) 主な観光施設

### ア 詩碑

「詩のまち」を標ぼうしている本市には、本市出身有名詩人の詩碑が市内各所のゆかりの地に建立されているほか、平成5年から創設された萩原朔太郎賞の受賞作品の詩碑が広瀬川河畔に建てられている。

萩原朔太郎	記念館	広瀬川河畔
萩原朔太郎	詩碑	敷島公園ばら園内、広瀬川河畔、才川公園内、大渡橋歩道欄干、新前橋駅東口、前橋こども公園内
萩原恭次郎	詩碑	群馬大橋西詰、前橋こども公園内
平井晩村	詩碑	前橋公園臨江閣南
山村暮鳥	詩碑	中央大橋西詰、前橋こども公園内
伊藤信吉	詩碑	広瀬川河畔遊歩道
高橋元吉	詩碑	高浜公園内、前橋こども公園内
志賀直哉	文学碑	赤城山山頂
松野自得	句碑	赤城山山頂句碑めぐり遊歩道内

### イ 敷島公園

大正11年官有地の払い下げを受けて開園した。大正14年一般から公募して「敷島公園」と命名された。

広さ37.6haの園内には県営陸上競技場、野球場、プールなどの運動施設のほか2,700本の松林、「全国都市緑化ぐんまフェア」の開催にあたり大規模改修が行われ、さらに拡充された約600種・約7,000株のばら園、蚕糸記念館、温室、歌碑、詩碑、句碑などがあり、前橋市を代表する公園として、広く市内外から多くの人々が訪れる。

### ウ 前橋公園

明治38年日露戦役記念を兼ねて下川原及び風呂川流域招魂社東照宮河畔を公園地として設置された都市公園である。

現在は、広さ18.5haの園内に、前橋市中央児童遊園るなばあく、臨江閣、さちの池、親水水上ステージ、詩碑、句碑、楯取素彦功徳碑、宮崎有敬翁紀功之碑があり、付近にはグリーンドーム前橋、高浜公園、虎姫観音堂などがある。特に桜の開花時には、約350本のソメイヨシノが咲き、桜の名所として親しまれている。

### エ 県立赤城公園

昭和10年に開設された県立公園で、面積は1,290ha。約10万株のレンゲツツジが咲き誇る白樺牧場やボート遊び、ワカサギ釣りが楽しめる大沼があるほか、赤城山総合観光案内所や赤城少年自然の家といった市有施設や県立赤城公園ビジターセンターもある。さまざまなルートで登山やハイキングなどを楽しむことができる。

### オ 広瀬川河畔緑地・前橋文学館

昭和22年戦災復興事業の一環として取り組まれ、昭和50年から56年にかけて中央前橋駅久留万橋から上流の柳橋まで約1,200m、2.7haが整備された。また、平成19年度から23年度には、広瀬川河畔緑地再整備事業として厩橋から久留万橋までの延長約750mを再整備した。

あずまや、緑道、観賞池、モニュメント、詩碑、歌碑などがある。

平成5年9月「前橋文学館」がオープンし、朔太郎橋や立体駐車場の市営パーク城東も整えられ、平成29年4月には、「萩原朔太郎記念館」が移築され、「水と緑と詩のまちまえばし」のシンボルゾーンとして親しまれている。

#### カ 大胡ぐりーんふらわー牧場

旧大胡町営牧場を前身に整備を進めた「大胡ぐりーんふらわー牧場」は、平成2年からは赤城山の赤城おろしをイメージした「赤城ウィンディパーク」を愛称に市民の憩いの場と観光施設を一体化した施設で整備が進められ、平成7年には、「ぐりーんふらわー牧場・大胡」として道の駅に認定され、赤城南麓に点在する他の観光施設とともに、観光客の休憩場所や地域住民の憩いの場としての活用を推進している。

#### キ 粕川温泉元気ランド

平成10年8月より営業が開始され、子供から高齢者まで日常生活を離れて、ゆったりくつろげるよう、また、幅広い市民が活用できる施設づくりを基本理念として運営されている。

施設は、源泉を2つ持ち、2種類の温泉や、低温サウナ、自然石を利用した露天風呂、檜風呂と健康増進のため温水プール（25メートルプール）を完備している。

#### ク 富士見温泉 見晴らしの湯 ふれあい館

赤城山の中腹を東西に走る国道353号沿いにあり、野菜等の産地直売所が併設されているため、赤城山の観光スポットのひとつとなっており、平成23年7月から「ふじみ」の名称で道の駅として認定されている。

平成9年9月にオープンしたこの温泉施設の泉質は、ナトリウム・カルシウム・塩化物温泉で、塩分を含んでいるために、体の芯から温まり、保湿性があると評判である。また、食堂では地元の素材を活かしたおいしい料理が味わえ、関東平野も一望できるなど景色は抜群で、露天風呂からは富士山が見えることがある。

平成27年4月から改修工事を行い、同年8月1日にリニューアルオープンした。

#### ケ 荻窪公園あいのやまの湯

赤城大鳥居を東西に走る県道34号線沿いに、10種約16,000株の見事なアジサイが植栽されている荻窪公園内に、「子供から高齢者まで、日常生活を離れて、ゆったり、ぬくもり、くつろげるよう、幅広い市民が活用できる施設」をコンセプトとして運営されている。広々とした大浴場に露天風呂、歩行浴ができるバーデプールのほか、風呂付個室も備えている。すぐ隣には農産物直売所もあり、国道17号バイパス「上武国道」が近くに建設されたことから、平成23年3月から道の駅「赤城の恵」としてオープンしている。

#### コ 赤城大鳥居

広域観光の観点から、本市を起点とした赤城山との観光的互惠を深めるため、昭和40年10月31日富士見町地内の赤城県道に高さ21.3メートル余の赤城大鳥居を設置している。

### (3) 観光関係団体の育成と物産の宣伝

観光ニーズの多様化、高速交通網の整備による観光圏の拡大に伴い、(公財)前橋観光コンベンション協会や前橋市物産振興協会等関係団体の組織力、財政力の強化を推進している。本市では関係団体の支援育成及び周辺地区の観光振興事業の円滑な推進を行い、地域産業経済の発展と文化の興隆、本市のイメージアップと市民福祉の増進などの諸事業が活発に行えるよう団体の育成強化に努めている。

さらに、本市の観光の発展と物産の振興推進に伴い、関係機関と連携し、魅力ある観光都市“まえばし”の創造を目指す施策を構築し、実行していくために「ようこそまえばしを進める会」を平成17年11月に設置した。

「ようこそまえばしを進める会」では、「TONTONのまち前橋」として、T-1グランプリの開催や、豚肉料理グルメブックを発行する等、積極的な普及宣伝活動を行っている。

また、平成29年4月には前橋物産館を「Vento Maebashi」と名称変更、大幅リニューアルを行い、平成29年9月より前橋臨江閣でも売店を設置、一層の効果的な前橋の物産の普及宣伝活動を行っている。



#### (4) 観光コンベンションの推進

前橋の観光振興事業の中核であった「前橋市観光協会」とコンベンションシティへのソフト面の取り組みをしていた「(財)前橋コンベンション・ビューロー」が一体的に事業推進するために平成18年4月に統合し、(財)前橋観光コンベンション協会となった。これにより、観光とコンベンション機能の充実や強化を図り、来橋者の増加を推進し、地域経済の活性化に努めている。

また、同協会は平成25年度から公益財団法人に移行し、コンベンション誘致に積極的に努めている。

#### (5) 広域観光の推進

観光コースの広域化、観光ニーズの多様化に対応するため、国道353号沿線を「あかぎ・風ライン」として観光宣伝等を行ってきたが、平成23年度から赤城山を中心とした地域間での観光振興を図ることを目的とする「赤城山広域振興協議会」により、観光宣伝や物産の紹介など周辺地域と共同で取り組んでいる。

また、赤城山及び周辺地域の観光振興を図るため、赤城山をフィールドとして環境保護活動や環境教育プログラムに取り組んでいるNPO法人赤城自然塾が、前橋市と桐生市を活動地域とした観光づくり組織である地域連携DMOとして、平成30年7月31日に国(観光庁)に登録され、行政や地域内の各種団体と連携し、広域観光を推進している。

#### (6) 観光宣伝、観光プロモーション等

雑誌、新聞、テレビ、ラジオ、インターネットを積極的に活用するほか、観光大使や本市のマスコットキャラクター「ころとん」を活用し、イメージアップの推進に取り組むとともに観光プロモーションを実施している。また外国人観光客を積極的に誘致するために、前橋市国際交流協会の協力により多言語観光パンフレットを作成、PRを行なっている。また、海外旅行会社へのプロモーションを通じて、インバウンド事業を推進している。更に、市の観光パンフレットの作成や、(公財)前橋観光コンベンション協会独自で発行している観光情報誌を利用するなど、本市の宣伝及び観光地の周知に努めている。

#### (7) スローシティ国際連盟への加盟と前橋・赤城スローシティ事業

前橋市とイタリア共和国オルビエート市は1997年12月に友好都市提携を結び、積極的な友好関係を築いてきた中、ヨーロッパの古い歴史や文化、伝統を誇りとし、精神的豊かさを大切にゆったり暮らすことを推奨するスローシティの国際連盟の本部を置いていることから、前橋市もその精神に賛同し、2017年5月に赤城山及び南麓地域がスローシティ国際連盟への加盟を認証された。

本市では、この加盟を機会にゆとりある豊かなまちづくりを進めるため、地元市民による協議会を立ち上げ、この地域にある自然や文化などを観光資源として磨き上げ、インバウンドを含めた情報発信により交流人口の増加を目指している。

